

〔招 聘〕

招 聘 者 異文化コラボレーション 国際ワークショップ実行委員会/ 京都大学教授 石田 亨 1063101
会 議 名 IWIC2007 第一回 異文化コラボレーション国際ワークショップ
(The First International Workshop on Intercultural Collaboration)
出張期間 平成19年1月25日 ~ 26日
開催場所 京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール
被招聘者 プリンストン大学 心理学専攻 上級研究員 Christiane D. Fellbaum博士

概 要

本会議は、言語、文化の壁を越えるための、Web、インターネット、自然言語、コミュニケーション、教育・心理学等の学術論文と、国際活動を行うNPO等の事例研究を集めた世界初の国際ワークショップである。

今回招聘のChristiane D. Fellbaum氏は、WordNetと呼ばれる人間の語彙に関する心理言語学論に基づいた英語語彙集を作成したGlobal WordNet Associationの会長も務めている。言語および文化の両方の壁を越え、情報通信機器を人間が利用することで異文化コミュニケーションを促進するという観点において招待講演者には最適であり、本会議への参加を招聘した。

第一回の異文化コラボレーション国際ワークショップであったが、世界23カ国から103名の参加者を迎え、招待講演の他、それぞれ異なる立場から異文化コラボレーション研究へのアプローチが紹介され盛況の内終了した。今回のワークショップを特徴付けているのは、異文化コミュニケーションにおける複合的な問題を扱った点である。研究者だけでなくNPOを中心とした異文化コラボレーションの現場で活動しているフィールドワーカーによる発表もあり、様々な視点からの検証および情報交換が行われ、熱心な議論が交わされた。研究面においても、自然言語処理を中心とした情報工学系の研究者に加え、社会言語学や文化人類学など幅広い分野からの参加があり、新たな連携が生まれそうである。異文化コラボレーション活動は、ビジネス、科学、教育の分野に大きく貢献する可能性を孕んでいるが、文化および言語の違いから生じる問題を抱えている。問題解決のためには、文化がコラボレーション活動に与える影響に対する理解、そしてコンピュータを媒体とする新たなコミュニケーションツールが必要である。追ってSpringerからの出版予定の論文集では、この両面からの考察がなされているのでご紹介まで。